

文の感情価の測定に関する一研究

富山 尚子

(お茶の水女子大学 人間文化研究科)

人は、文章を読んで、楽しくなったり、悲しくなったり、感動したり、憤慨したりする。つまり、文章は人の感情に様々な影響を与えると考えられる。同じ文章でも、その時のムードや個人のパーソナリティー、読解力等の読み手の側の要因や、文章の提示の仕方等のその他様々な要因によって、与える影響は異なると考えられるが、その文章が自ずから持っている感情的性格 (affective valence) の影響についても考える必要があると思われる。単語の感情価 (affective value) についてはHeise (1965) によって、1000個の単語を対象にした研究がなされているが、文章については、その感情価の適切な判断の方法はまだ確立されていない。Bestgen (1994) は、少数の短編テキストを用いて、各文もしくは各語彙が、pleasantであるかunpleasantであるかの判断をさせ、テキストの中の単語の感情価を用いてテキスト全体の感情価を予測する可能性について検討している。

本研究では、Bestgen (1994) の用いた方法を参考に使用する形容詞を変えて (ポジティブーネガティブ)、文章の感情価を測定するための予備的な実験を行う。

【方法】

被験者：女子大学生 27名 (各群9名ずつ)。

材料：小川未明作「金の輪」全文。

課題：各群とも質問紙形式で実施。

A) 単語群；「金の輪」の全文中から取り出した、213個の単語ユニットをランダムに提示し、5段階の評定 (非常にポジティブ (1) ~非常にネガティブ (5)) をさせた。ただし、最初に10個のダミー (小川未明の別の作品から取り出したもの) を加えた。各単語ユニットは、原則として原文を文節で

区切ったもの (原則的に助詞は省く) である。

尚、分析では、全42文について、各文に含まれる全ての単語ユニットの評定の平均値を使用する。

例) そして、その輪は金色に光っていました。

=そして (3) +その (3) +輪 (2) +金色 (1) 光っている (2) =2.2

B) 文 (バラ) 群；「金の輪」の全42文を文の順序をランダムにして提示し、5段階の評定をさせる。

尚、最初に10個のダミー (小川未明の別の作品から取り出したもの) を加えた。

C) 文 (文章) 群；「金の輪」の全42文を原文の順序通りに提示し、5段階の評定をさせる。

【結果と考察】

図1は、各文の評定値の平均を示したものである。各文について、3群の比較を行ったところ、単語群とバラ群で評定が異なった文は11文、単語群と文章群で評定が異なった文は21文、バラ群と文章群で評定が異なった文は7文であった (表1参照)。従ってバラ群の評定は、単語群の評定から70%以上予測できたと考えられる。バラ群で単語群との評定が異なった文は1文を除いて文章群と共通しており、この10文については、文の形独自の評定が、単語群の評定からは予測できなかったと考えられる。文章群の評定については、バラ群と比べると単語群の評定からの予測はかなり困難であったと考えられる。また、文章群では、単語群と評定が異なった文のうち、バラ群と共通していない11文は、8文がポジティブ評価、3文がネガティブ評価であり、特に文章の流れの中でポジティブと評価される文の評定については、単語群の評定からの予測は困難であったと考えられる。今後は、予測できなかった文の内容等についての詳細な検討を行っていく。

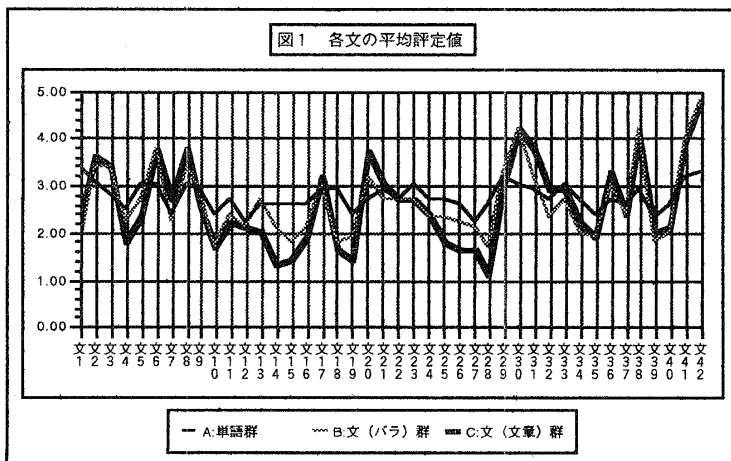


表1 平均評定値の比較

| | | | |
|-----|-------|-----|-------|
| 文1 | A>B=C | 文25 | A=B>C |
| 文4 | A=B>C | 文26 | A=B>C |
| 文6 | A<B=C | 文27 | A=B>C |
| 文8 | A<C | 文28 | A>B>C |
| 文10 | A>B=C | 文30 | A<B=C |
| 文14 | A=B>C | 文31 | A=B<C |
| 文15 | A>B=C | 文34 | A>B |
| 文16 | A>C | 文36 | A<C |
| 文18 | A>B=C | 文38 | A<B=C |
| 文19 | A>C | 文41 | A<B=C |
| 文20 | A<C | 文42 | A<B=C |